

# 琵琶湖の“経験”伝える

第14回

## 世界湖沼会議

米国・オースティン

国際湖沼環境委員会（I-L-E

世界の政府・行政関係者や研究者、市民らが湖沼環境問題などの解決策を探る「第14回世界湖沼会議」が10月31日から11月4日まで、米国テキサス州オースティン市で開かれる。「湖沼、河川、地下水、海岸域の『つながり』」がテーマで、滋賀県からは嘉田由紀子県知事や県職員、高島市の住民団体が参加し、琵琶湖保全の取り組みや琵琶湖淀川水系の流域管理について世界に発信する。

C、草津市）とテキサス州立大

河川システム研究所の主催。湖沼と上下流の河川とのつながりを流域全体の大きな視点で考える「統合的流域管理」が主

31日開幕

では共同議長を務める。

約50の分科会も連日あり、県職員3人が「マザーレイク21計画第2期改定」「琵琶湖淀川のこれから流域管理」「琵琶湖での外来魚の影響」について発表する。高島市の住民団体「針江庄水の郷委員会」も湧き水を生活用水に使う「川端」の文化を披露する。

要テーマで、約500人が参加する。嘉田知事は開会式で「琵琶湖の経験」と題して、琵琶湖総合開発の歩みや、近畿が広くかかわる琵琶湖淀川水系の水源、洪水時の水位調節の取り組みを紹介する。各の政府・行政関係者による国際政策フォーラム

(相見昌範)

京都新聞  
2011.10.20  
(一面)

1923.10.30 京都新聞 朝刊

## 河川との一体管理議論

あす開幕

# 世界湖沼會議

## 米国・オースティン

(ILBM)」が主要テーマ。ほかにも水質や生物多様性、気候変動との関わりなど多彩な分科会や、学生セッションなどが繰り広げられる。

市)と開催国の団体が主催し、これまで計9カ国で開かれている。

第14回世界湖沼会議が31日、米国テキサス州オースティン市で開幕する。湖沼と上下流の河川を一体で考える統合的湖沼流域管理

県の提唱で1984年に始まった。第2回以降は県や民間企業などが出資する国際湖沼環境委員会（草津

施する。テキサス州は、地下からの湧き水を使った人工の貯水池が多く、多様な目的で利用されている。

(相見昌範)

# 湖沼の利用、保全へ英知

米で世界会議

## 流域の組織や政策、技術、情報を統合

米国テキサス州オースティン市で31日を開幕する「第14回世界湖沼会議」では、湖沼と上下流の河川を一体で考える「統合的湖沼流域管理（ILBM）」が大きなテーマになる。主催団体の国際湖沼環境委員会（草津市）科学委員長の中村正久・滋賀大環境総合研究センター特任教授に、ILBMの考え方と会議に寄せる期待を聞いた。

（相見昌範）

国際湖沼環境委

中村正久・科学委員長に聞く



湖沼を持続可能な形で利用、保全する仕組みが求められている」と語る国際湖沼環境委員会の中村科学委員長

（大津市平津2丁目、滋賀大環境総合研究センター）

—統合的湖沼流域管理（ILBM）とは。

「湖沼といえば水質の問題が思い浮かぶが、水道水や農業利用、漁業、生態系などさまざまな価値がある。湖沼を持続可能な形で利用、保全できるようにする仕組みだ。世界各地で湖沼環境は悪化しており、国際的に共通の枠組みが必要だ」

「ILBMは流域を管理する組織や政策、技術、情報を統合させ、湖沼にかかわりがある全ての人があなたに参加し、流域管理を長期的に継続できる資金を確保することが柱だ」

「ILBMを進める上で大切な視点は、「湖沼の計画を立てるだけではなく、それを実施して成果をあげることが重要で、流域でのガバナンス（統治）が欠かせない。住民らが自主的に取り組む姿勢も求められる」

論が展開されるか。

「ILBMの議論は2000年5月にケニアで開かれた湖沼会議で始まり、その後、この考え方を採用する国が出てきた。07年のインド、09年の中国での湖沼会議を経て、ILBMの概念はかなり固まってきた。今回は実施国での成功や失敗例の情報を共有し、よりよいものに進化させたい。滋賀県の嘉田由紀子知事が共同議長を務める国際政策フォーラムなどで議論を深め、会議の最後にとりまとめるオースティン宣言に方向性を盛り込みたい」

—琵琶湖淀川水系におけるILBMの現状は。

「琵琶湖と大阪湾、流域の河川

H23.11.1 京都新聞 朝刊



世界各国の研究者らが集まつた第14回世界湖沼会議  
の開会式(米国オースティン市のオースティン・コン  
ベンションセンター)

## 流域の「つながり」議論

### 世界湖沼会議、米で開幕

【オースティン(米国)  
滋賀本社 相見昌  
範】第14回世界湖沼会議が31日、米国南部のテキサス州オースティン市で開幕した。「湖

沼、河川、地下水、海岸域の『つながり』を考える」をテーマに、研究者と行政、市民の

3者による議論が繰り広げられる。開会式では、世界各国からの参加者を前にオースティン市の関係者が歓迎のあいさつを述べ、主催2団体のテキサス州立天河川システム研究所と、国際湖沼環境委員会(ILE)と題して講演し、涌き水を生活用水に使う高

C) 草津市)のトップが、会議で主要テーマとなる「統合的湖沼流域管理」などへの活動を呼びかけた。

滋賀県の嘉田由紀子知事は「琵琶湖の経験」と題して講演し、涌き水を生活用水に使う高

島市新旭町針江の「川端」文化などに触れたながら「環境負荷を減らすには、人々の生活に琵琶湖との関わりを取り戻すことが大切だ」と訴えた。

会議は3日までで、約35カ国の約500人が参加する。

H23.11.2 京都新聞 朝刊

世界湖沼会議で琵琶湖と人々の生活について講演する滋賀県の嘉田知事(米国オースティン市・オースティンコンベンションセンター)



## 水とのつながり意識し行動、環境負荷抑えたい

【オースティン(米国) 滋賀本社】相見昌範 滋賀県の嘉田由紀子知事は31日、米国テキサス州オースティン市で開幕した第14回世界湖沼会議で、琵琶湖の保全に向けた県の取り組みについて講演した。「水とのつながりを意識して行動することが、環境への負荷を抑えることにつながる」と発信した。

第14回  
**世界湖沼会議**  
米国・オースティン

嘉田知事はまず現代の水事情について、井戸水や湧き水といった「近い水」をする問題が生まれた」と振付けて、下流の淀川流域と一体的に根ざした行政による流域統治が必要として、「統合的流域管理の議論を関係者と進める」と意欲を見せた。また、大津市で開かれた第1回世界湖沼会議を主導し、今年7月に亡くなつた琵琶湖研究所初代所長の吉良龍夫さんにふれ、「住民と行政、研究者が一緒に琵琶湖総合開発」が転機となり、琵琶湖との関わりを取り戻し始めたと説明した。嘉田は、琵琶湖保全について、生を受け継ぎ、美しい琵琶湖を次世代に引き継ぎたい」と述べた。

嘉田知事

# 琵琶湖保全へ意欲

# 湖国の水文化に熱視線



「川端」文化について写真を交えながら紹介する「針江生水の郷委員会」の小坂さん(米国・オースティン市)

琵琶湖のそばに約170世帯が暮らす針江は、各家庭で地下10メートルから水温12~14度の水が湧き出る。その場所が「川端」と呼ばれ、飲み水や調理、保冷などに使われている。

発表では美濃部武彦会長(67)が「小さな町の取り組みだが、1400万人の水源の琵琶湖を守っている」といさつし、メンバーの小坂育子さん(63)が、水道が普及する中でなぜ「川端」文化を残せたかを説明した。

## 「川端」守る決意表明

発表後、美濃部会長は「世界の多くの人が身を乗り出して聞く様子を見て、水の大切さをあらためて感じた。先人が育ててくれた水文化を次世代にしっかりと引き継ぎたい」と話した。

ケニアからの出席者は、

禁漁期を設けているのに守つてもらえない事例を紹介し、「自然管理では、資源に依存する人の生活とうまく調節することが必要だ」と主張した。

一方、フリーランスの代表は「湖は水を(飲)料用の商品として扱っており、生き物がいたり、調し、議論をまとめた。

第14回

## 世界湖沼会議

米国・オースティン

【オースティン(米国)滋賀本社】相見昌範】1日、第14回世界湖沼会議の分科会「NGO・市民公開セッション」で、高島市新旭町針江の住民団体「針江生水の郷委員会」が、湧き水を生活用水に使う「川端」がある暮らしについて発表した。住民ぐるみで水を大切に使う湖国の文化が世界の注目を集めた。

「川端」は水道に比べて家中に温気がこもり、衛生面に難があるとの声が上がったが、7年ほど前にマスメディアが取り上げたのが分岐点になったと指摘。「多くの人の見学を受け、足元にある価値を再発見した。自然どのかかわりを絶たないように『川端』を守り抜こうと決めた」と、集落での意識変化を振り返った。

委員会ではボランティアで案内役を務めており、会場に集まつた約60人に「暮らしの根っこに水とのかかわりがある針江に来てください」と呼びかけ、大きな拍手を受けた。

発表後、美濃部会長は「世界の多くの人が身を乗り出して聞く様子を見て、水の大切さをあらためて感じた。先人が育ててくれた水文化を次世代にしっかりと引き継ぎたい」と話した。

ケニアからの出席者は、大事だと呼びかけた。嘉田知事は湖沼を持続可能な形で利用し、保全する仕組み

「統合的湖沼流域管理」について、「どの地域の湖沼

が分かる言葉を使うことが大事だと呼びかけた。嘉田

知事は湖沼を持続可能な形で利用し、保全する仕組み

「統合的湖沼流域管理」について、「どの地域の湖沼

が生き物がいたり、調し、議論をまとめた。

# 生活に湧き水世界発信

国際政策フォーラムで共同議長を務める嘉田知事(米国・オースティン市)

第14回

## 世界湖沼会議

米国・オースティン

【オースティン(米国)滋賀本社】相見昌範】第14回世界湖沼会議3日目の2日、滋賀県職員3人が分科会で、生態系に配慮した琵琶湖の総合保全の必要性や外来魚対策について発表した。会場からは「琵琶湖は湖沼保全の先進例だ」との声が上がり、熱心な質問が相次いだ。

## 琵琶湖保全は世界の“指針”

琵琶湖政策課の三和

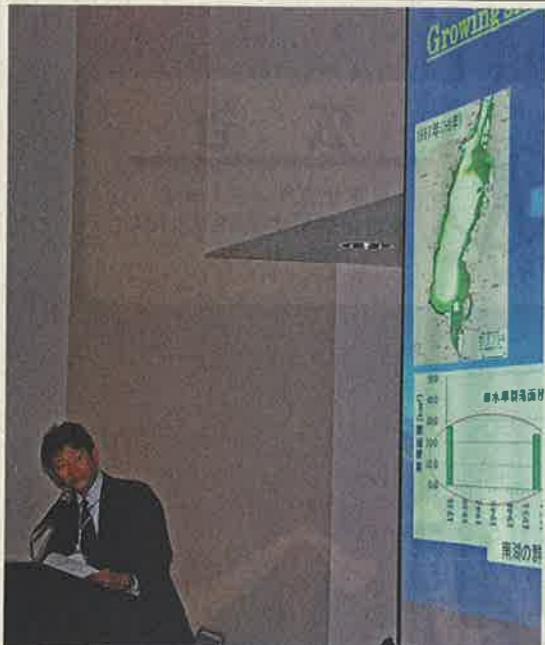
伸彦副参事はビデオ映像を交え「琵琶湖総合開発事業」の歩みや水質改善を目指したせつけん運動、「びわ湖の日」制定の歩みを紹介。同事業の後を受けて県が1999年度に策定した「マザーレイク21計画」のこれまでの成果を説明した。

「生活、工場排水を規制し、水質は目標の昭和40年代前半に近づいた」とする一方で、生態系バランスの変化で改善が進まない水質項目もあると報告し、「生態系への配慮を自覚するのが大切」と強調した。

琵琶湖博物館の中井克樹専門学芸員は、生態系に深刻な影響を与えた。

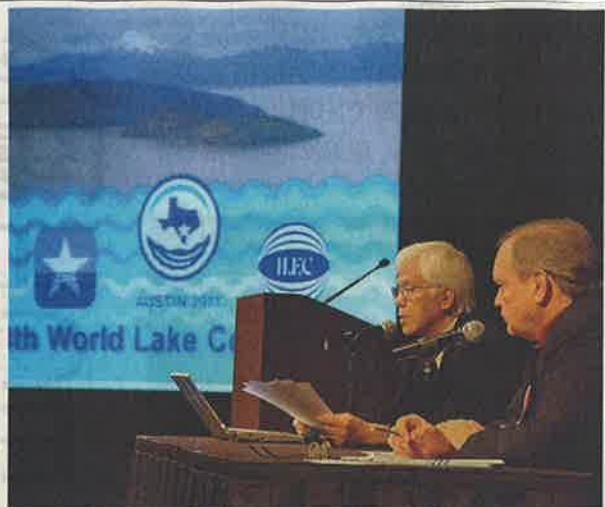
## 県職員発表、質問熱く

分科会 中井専門学芸員は「発表後もフィリピンのラナオ湖の保全関係者から『琵琶湖と同じように外来魚で困っており、もっと状況を教えてほしい』と依頼があつた。いろいろな方ができることが大切で、情報を交換していきたい」と話した。



生態系に配慮した琵琶湖保全の必要性を呼び掛ける三和副参事(米国オースティン市・オースティンコンベンションセンター)

H23.11.5 京都新聞 朝刊



閉会式でオースティン宣言を提示する国際湖沼環境委員会の中村科学委員長(左)とウォルター教授(オースティンコンベンションセンター)

第14回

## 世界湖沼会議

米国・オースティン

4日間の議論のまとめとなる宣言では、7

その上で、来年にア

宣言採択し閉幕

「継続支援を」

# 流域管理受け入れ進む

ラジルのリオデジャネイロで開かれる「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」で議論・検討すべき課題となるように努力する、と明記した。

閉幕後、テキサス州立大のウォルター・ラスト教授は「統合的湖沼流域管理を前面に出した会議はこれまでにあまりなく、参加者からすぐれた発表が多く出された」と振り返った。

主催した国際湖沼環境委員会(草津市)科学委員長の中村正久・滋賀大環境総合研究センター特任教授は「会議を通じて統合的湖沼流域管理に多くの支持があると分かった。リオ+20でも影響力を高めたい」と語った。

項目を提言した。湖沼の問題を上下流の河川とのつながりを含めて考える統合的湖沼流域管理について「参加型の取り組みを進めることが不可欠」と指摘した。

4日間の議論のまとめとなる宣言では、7

その上で、来年にア

2011.11.7 社説

## 世界湖沼会議

先月末から、米テキサス州オースティン市で開かれていた第14回世界湖沼会議が、湖沼の利用を持続可能とする仕組み「統合的湖沼流域管理」の重要性を訴える宣言を採択して閉幕した。

世界的に、湖や川の環境悪化が懸念されている。

途上国が、近代化に向けて開発を進めれば、水質汚

濁の問題に直面す

る。先進国においても、外来生物の繁殖や新たな化学物質の影響などから、本来の生態系を守るのは困難とされている。

こうした状況を受けて、滋賀県はじめ世界各地から参加した約500人の研究者や行政関係者らが、今回の宣言で、持続可能な湖沼利用について認識を共有したのは、意義深いことだ。

ただ、宣言をしただけで、現実の問題解決につながらないよう

## 統合的管理の具体化を

は意味がない。関係者が今後、具体的な施策にしていくことを期待したい。

統合的湖沼流域管理とは、どのようなものなのか。

湖を単体ととらえ、隣接する地域だけで保全の努力をしても、水が流れ込む上流域と、流れ出る下流域の協力がなければ、水質や水量の維持は難しい。

治水、利水、生態系の維持、景観の保全などのうち、何を重視す

るかによっても、管理の仕方が違つてくる。

そこで、利害関係者全員が参画し、湖沼管理の組織、政策、技術、情報を統合するとともに、管理を継続するための資金を確保することが求められる。これらの取り組みが、統合的湖沼流域管理の総体が、

つながりをより一層、重視すべきとしたうえで、流域ガバナンス（統治）の強化を訴えた。

湖沼と地域の関係の理想型を追いかめる試みだ。成果を挙げ、各地に広めてもらいたい。

日本の各地で水質が悪化した高  
度成長期に、こうした管理の仕組みはなかつたといえる。今、タイ

の洪水の背景には、森林の伐採や貯水機能を備えた水田の転用があると指摘されている。

いずれにせよ、一部の経済的利益のみを尊重しては、持続可能な水利用などできないということが、統合的管理の確立と導入を急がねばなるまい。

滋賀県は今回、嘉田由紀子知事らが、1996年度に完了した国際的な利水と洪水の減少が実現したことを紹介し

た。さらに、湖沼

の生態系維持と、人々の暮らしとの

つながりをより一層、重視すべきとしたうえで、流域ガバナンス（統治）の強化を訴えた。

湖沼と地域の関係の理想型を追いかめる試みだ。成果を挙げ、各

地に広めてもらいたい。

## 流域で考える

第14回世界湖沼会議から

(1)

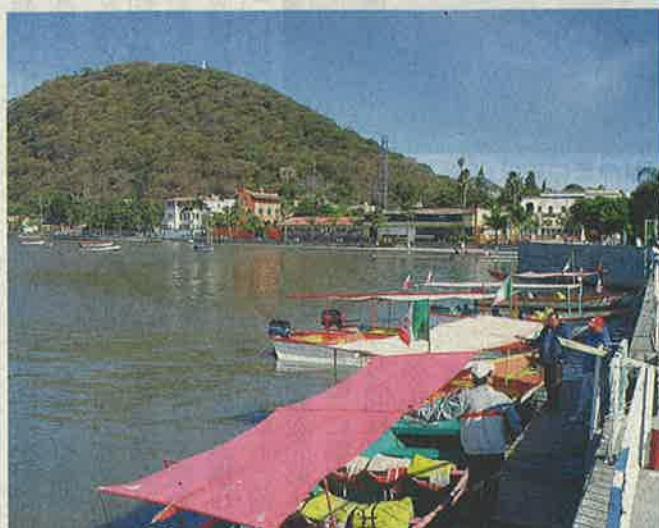
メキシコ南西部の「チャバラ湖流域」。上流のレルマ川沿いは穀倉地帯で取水が激しく、農家や工場から処理不十分で汚れた水が流れ込む。チャバラ湖は水位低下や富栄養化、重金属汚染が進み、川沿いと湖周辺の住民が対立していた。

米国テキサス州オースティン市で開かれた第14回世界湖沼会議には、チャバラ湖と上下流の2河川で構成される流域の関係者が初めて一堂に集まつた。

「保全過程にみんなが関わり、解決を目指す」。同会議の主要テーマ「統合的湖沼流域管理(ILBM)」の有効性を確認し合つた。利害は対立するが、「汚染は抜き差しならない」と、金員が危機感を募らせていた。

湖沼は人がすぐに使える淡水(真水)の大部分を占め、農業用水や漁業、生物多様性の保全など多様な価

## 広がる統合的管理



環境汚染が進むメキシコのチャバラ湖。流域の関係者が保全に向けて一步を踏み出そうとしている  
(2010年11月撮影、中村委員長提供)

# 湖の再生 河川と共に

河川も含め、保全に関わる組織や政策、技術などを統合し、湖沼にかかる負荷を少しずつ減らしていく。すでに世界約10カ国の約35湖で実施されているが、今回湖沼会議で国連環境計画も支援強化を表明。支持

が広がりつつある。

人口が12億人を超える、世界湖沼会議を主催する国際

問題が深刻なインドは、世界湖沼会議を主催する国際

湖沼環境委員会(草津市)の指導や07年の同会議のイン

ド開催もあり、10年版の国際湖沼保全計画にILB

Mを進める方針が盛り込まれた。「そこに暮らす人が利用し保全する共通の枠組みがなく、世界各地で環境悪化が進む。

ILBMは2005年ごろから注目されるようにな

は語る。

第14回世界湖沼会議で採択された宣言は、来年6月にブラジルで開かれる「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」で、ILBMを

議論、検討すべき課題となるように努力することを盛り込んだ。

世界の水議論は、利水や治水に重きを置く考えが主流で、「湖沼の視点が置き去りにされてきた」と中村委員長。「リオ+20を統合的湖沼流域管理を進める一つのステップにしたい」と意気込む。

△

米国で10月31日~11月3日に開かれた第14回世界湖沼会議は、各国の研究者や行政職員、市民らが集まり、統合的湖沼流域管理のあり方をめぐって議論を繰り広げた。その潮流を報告する。

合せ、できる部分から改善するという良さに政府が受けた一方、水が滞留しや善する」と、同委員会の中村正久科学委員長

# 流域で考える

第14回世界湖沼会議から

(中)

「琵琶湖淀川水系の統合的湖沼流域管理(ILBM)について上下流の関係者と議論を進めたい」。第14回世界湖沼会議の開幕式で滋賀県の嘉田由紀子知事は、流域管理の権限を国から住民に近い行政に移すことに意欲を見せ、「(7府県でつくる)関西広域連合が動き始めている」と強調した。

会議で主要テーマとなつた統合的湖沼流域管理には、さまざまな利害関係者が関わるため、中心となる推進主体の統治(ガバナンス)が重要とされる。

琵琶湖淀川水系は、上流の滋賀県が抱える琵琶湖の水が瀬田川から下流に注いだ後、木津川や桂川と合流して淀川となり、大阪湾に注ぐ広大な流域だ。同水系の中心的な統治は国が担つており、これまで琵琶湖総合開発や淀川水系河川整備

## 重要性増す利害調整役



琵琶湖淀川水系で上下流が連携した流域管理の焦点となる瀬田川洗堰(大津市南郷)

計画などを推進してきた。洪水や利水などを考慮して、琵琶湖の水位と下流の河川への流量を調整する瀬田川洗堰(大津市)は、国交省近畿地方整備局が操作の滋賀県が抱える琵琶湖の水が瀬田川から下流に注いだ後、木津川や桂川と合流して淀川となり、大阪湾に注ぐ広大な流域だ。同水系の中心的な統治は国が担つており、これまで琵琶湖総合開発や淀川水系河川整備

# 水管管理自治の時代へ

な水位低下で干上がるなど、新たな課題が明らかになつた。近畿地方整備局も産卵配慮した操作の試行を2003年に始めたが、嘉田知事は県議会の答弁で「水位操作は治水や利水、生態系配慮など複雑に絡み合う問題だが、国の出先機関ではどのような考え方で具体的に操作を行っているのか、住民に見えない」と批判。

「府県知事や連合議会が議論した上で操作し、流域自治を実現したい」と権限獲得を目指す。

している。操作規則は琵琶湖総合開発事業がほぼ完了した1992年、上下流府県の合意の上で定められた

トソDCが設立し、水質汚染対策や安定的な水供給などに取り組むなど、海外には先進事例がある。

中村正久滋賀大環境総合研究センター特任教授は「日本は国が流域管理を負い込みすぎた。地域自体で解決する能力を高める必要がある」と指摘。州際委員会は各州代表に加えて、一定の独立性を持つて分析したり助言できる専門職員がいるといい、「琵琶湖淀川水系でも、客観的に流域のあり方を考察し議論できることも懸念されている場が必要だ」と提案する。

琵琶湖淀川水系は、福井県の原発で事故が起これば水源が放射性物質で汚染されることも懸念されている。危機管理を含めた統合的湖沼流域管理の統治が重要な中、国の権限の受ける意見も根強い。だが、米国東部のボトマック川流域の機能充実が問われている。

# 流域で考える

第14回世界湖沼会議から

(下)

第14回世界湖沼会議の会場で、湧き水を生活用水に使う高島市新旭町針江の「川端」文化を紹介したポスター展示が出席者の注目を集めた。琵琶湖に流入する針江大川の環境を守るために、住民が年4回の川掃除をしていることに、インドの研究者ナゲシュ・テカレさんは「住民が主体的に活動しているのがすごい」と驚いた。

インドでは湖沼や河川の汚染が大きな問題だが、「市民ではなく政府が対応すればいい」との考えが専らという。「地域社会が自分たちの問題とと思って向き合わない限り改善しないのに」と憂う。

湖沼を持続可能な形で利用し保全する枠組み「統合的湖沼流域管理（ILB M）」は上下流も含めて対策をとるため、流域に関わるあらゆる人が参画するこ

## 問われる地域の環境意識

# 住民主役 湖国に脚光



水を大切にする地域文化をまとめたポスターを海外の研究者に紹介する「針江生水の郷委員会」のメンバー（手前）＝米国オースティン市

管理を行い、意見交換する場「マザーレイクフォーラム」も設置する。

琵琶湖だけではなく、下

流の府県との意識共有を目指す動きもある。滋賀県は

本年度、京都府と大阪府の小学生に水の大切さを学んでもらうため、琵琶湖を訪問する際の鉄道運賃の一部を補助する事業を始めた。

「蛇口の向こうは琵琶湖」が合言葉だ。

会議の分科会でも発表した高島市新旭町の「針江生水の郷委員会」の美濃部武彦会長（67）は「川端文化も川掃除も、水を大切にすと夢つ。

琵琶湖では、1977年に赤潮の発生を受けて「石けん運動」が住民ぐるみで繰り広げられた。琵琶湖総合開発事業の終了後、滋賀県が1999年度に策定した保全計画「マザーレイク21計画」にも市民参画はうることを盛り込んだ。県

嘉田知事は第14回世界湖沼会議で、大津市での第1回会議を主導した琵琶湖研究所初代所長の故吉良龍夫さんの理念について、こう置した。だが「行政が事務局を担い、市民の自主的な活動に発展しなかつた部分

川の流域ごとに協議会を設置した。しかし「行政が事務局を担い、市民の自主的な活動に発展しなかつた部分

が、この理念をどこに触れた。「環境問題は住民と行政、研究者が一体となる」と行政、研究者が一体となつて取り組むべきと強く思つておられた」。湖沼を持続可能に利用し保全するため、3者がこの理念をどこまで実践できるかに、統合的湖沼流域管理の実現がかかる。



わけではないが、公共の仕事を行う中で自然と実践できている」と解説し、「先進国では包括的な概念のもと、細切れに業務を担当している各機関を統合させ、多くの人の参画を得るべきだ」と強調した。



オースティン市の中心市街地

開幕式では、京都市のNGO「日本国際民間協力会（N I C C O）」がアフリカ南東部マラウイで進められた下水環境の改善と農地の収穫量アップを組み合わせた事業に注目が集まつた。便と尿を分けて集め、肥料として使う「エコサントトイレ」。

滋賀県の嘉田由紀子知事が、住民の自立支援につながる取り組みとして紹介した。

嘉田知事は講演で「地球上の70億人のうち30%以上はトイレがない生活だ。屎尿による飲み水汚染は乳幼児死亡率を上げている」とした上で、振り返った。

実際に2007年からマラウイでエコサントトイレを680基以上建設しているN I C C Oによると、同国では野外の地面に穴を掘つただけのトイレが大半。穴に雨が流れ込んで周囲の畠や井戸にあふれ、住民はコレラや下痢にかかっていた。

エコサントトイレは高床式の小屋に便槽を設け、コレラ発生率をゼロにした。また、肥料にしやすいように



マラウイで普及が進む  
エコサントトイレ  
=N I C C O 提供

尿と便の穴は別々にしている。栄養分の多い尿は10倍に薄めてすぐに液体肥料として使い、便は灰をかけて半年かけて病原体を減らし、堆肥にする。

だがマラウイは屎尿を肥料に使う習慣がなく、「住民の抵抗感は強かった」とN I C C Oの広報マネジャー吉川七重さんは話す。肥料を使つた畑と使わない畑を設け、収穫量に2・5～4倍の差がつくのを目撃できる形で示すことで、普及は進んだ。

「貧困の連鎖を止めるためには、住民が自立することが大切で、収入増は第一歩」と吉川さん。「支援者がいなくなつても持続できるように、住民がエコサントトイレを建設し、維持管理ができるよう人に材を育成している」と語る。

## 貧困の連鎖、止める手だてに



中央の穴に尿、両脇の穴に便をためる  
エコサントトイレ=N I C C O 提供

■ 嘉田・滋賀県知事講演

### マラウイ・エコサントトイレ

尿と便の穴は別々にしている。栄養分の多い尿は10倍に薄めてすぐに液体肥料として使い、便は灰をかけて半年かけて病原体を減らし、堆肥にする。

だがマラウイは屎尿を肥料に使う習慣がなく、「住民の抵抗感は強かった」とN I C C Oの広報マネジャー吉川七重さんは話す。肥料を使つた畑と使わない畑を設け、収穫量に2・5～4倍の差がつくのを目撃できる形で示すことで、普及は進んだ。

「貧困の連鎖を止めるためには、住民が自立することが大切で、収入増は第一歩」と吉川さん。「支援者がいなくなつても持続できるように、住民がエコサントトイレを建設し、維持管理ができるよう人に材を育成している」と語る。

### 日本の研究レベルを評価

テキサス州立大のウォルター・ラスト教授  
写真=の話

今回の会議では、湖沼だけではなく、流域のさまざまな仕組みとの関係性を含む統合的湖沼流域管理（I L B M）という難しいテーマに踏み込むことができた。流域管理に関する政治の役割について積極的に取り上げるべきで、議論の場が大切だ。

日本から参加した研究者のレベルは高く、高島市新旭町針江の「川端」文化の発表も、水環境の保全に地域がどのように取り組むかについて、大きな影響力があった。

世界湖沼会議は滋賀県が発祥で、今も国際的に貢献してもらっている。引き続いて県や国際湖沼環境委員会はサポートをしてほしい。

